

加藤正義 かとう せいぎ 陶藝家。昭和七年四月二十六日岐阜縣多治見市中之倉生れ。六十一年四月二十三日歿（九三―八七）。昭和二十年美濃の名門加藤幸兵衛窯に入り陶技を學ぶ。二十五年幸兵衛の推薦により北大路魯山人門下となる。二十七年詩人荻岡久利の知遇を得、二十七年初個展。四十四年久利の世評で加藤正義陶の会發足、銀座で個展開催。爾後、秦野、千葉、小田原で個展を開くと、生活保護を受けるなど極貧生活の未栄養失調で歿。木村東介の羽黒洞主権による遺作展（銀座松坂屋）があった。また若干の詩、俳句を遺したといふ。その生活ぶりを知り、長谷川利行、谷中安規、山頭火ひろはがる風狂無頼の生が、今日の飽食暖衣の時代にはおあうえたことと敬慄した。（針生一郎）。

（針生一郎）。

『加藤正義日記―昭和五十五年』（平成二年九月十五日流林書房）刊。

